

「食物アレルギー診断支援ツール研究：予備研究」（慶應義塾大学医学部倫理委員会承認番号：20211050）

で用いた模擬症例を示す。

問題は「おとな」の食物アレルギー（文光堂、ISBN 978-4-8306-2062-1）に一部が記載されている。

問 1

【症例】 25 歳 女性 事務職

【主訴】 口唇の腫脹、咽頭搔痒感

【現病歴】

以前モモを摂取した際に、口唇の腫脹と咽頭搔痒感を自覚したことがあった。数日前に間食にピーナッツを摂取した際にも同様に口唇の腫脹と「喉や口の中がイガイガ、ピリピリした感じ」を自覚した。その後症 1 時間ほどで自然改善したが、不安になり内科外来を受診した。

【既往歴】

幼少期の食物アレルギーの既往はない。気管支喘息やアトピー性皮膚炎の合併はない。

【生活歴】 東京都在住、独居。喫煙：なし。飲酒：機会飲酒。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ Ara h 2, ハンノキ花粉

問 2

【症例】 17 歳 女性 高校生

【主訴】 蕁麻疹

【現病歴】

16 歳時に海水浴に行き、ゆでたカニを食べたら 30 分後に蕁麻疹が出現し、その後カニは食べずにいたが、エビは時折食べていた。17 歳時夏のお祭りでエビせんべいを買って食べた 20 分後より眼瞼腫脹と頸部から四肢・体幹に蕁麻疹が出現し拡がり、救急外来を受診した。点滴治療と内服（詳細不明）で改善した。1 ヶ月後に精査のためのアレルギー科を受診した。

【身体所見】 意識清明、血圧 122/84 mmHg、脈拍 96/分、SpO₂ 99%、眼瞼腫脹、四肢・体幹に蕁麻疹、聴診上異常なし。腹部に異常所見を認めない。

【既往歴】

11 歳時より季節性アレルギー性鼻炎、16 歳時カニアレルギー。

【生活歴】 両親と同居。喫煙：なし。ペットの飼育歴なし。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ エビ

問 3

【症例】 35 歳 男性 事務職

【主訴】 蕁麻疹、咳嗽

【現病歴】

夕食にそば屋で鴨南蛮うどんと日本酒を 1 合摂取したところ、食事開始 30 分ほどして掻痒感を自覚し、直ちに蕁麻疹を頸部、肘窩に認めた。さらに喉頭絞扼感と咳嗽が出現し、蕁麻疹が全身に広がったため救急要請した。

うどんを含め小麦製品は日常的に摂取しており、飲酒との組み合わせも珍しいことではない。同時に食べたものには鴨肉、長ネギ、三つ葉などがある。

【既往歴】

小児期にソバを少量摂取したときに口腔内違和感があったため、摂取を回避してきた。気管支喘息 軽症 持続型、ICS 使用。アトピー性皮膚炎 軽症、適宜外用薬で治療。

【生活歴】 東京都在住、独居。喫煙：なし。飲酒：機会飲酒。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ソバ

問 4

【症例】 19 歳 女性 大学生

【主訴】 蕁麻疹、腹痛

【現病歴】

幼少期から鶏卵アレルギーがあったが、高校生の時に行った卵白の食物経口負荷試験で陽性であり、その後は主治医の指示のもと、症状誘発閾値以下の食品として指示された量のクッキーやパンは食べたことがあった。本日友人と外出した際、普段少しは食べているので大丈夫だと思いショートケーキを半カット食べた。30 分後から顔、頸部、腹部に膨疹が出始め、全身に広がった。1 時間後から腹痛も出始めたため不安になり救急外来を受診した。

【既往歴】

16 歳：食物経口負荷試験 ゆで卵白を 4g 摂取し全身蕁麻疹が出現したため陽性の判定。現在の摂取状況：指定されたメーカーのパンや焼き菓子 1 枚程度は症状なく摂取できる。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ オボムコイド

問 5

【症例】 16 歳 男性 高校生

【主訴】 咽頭違和感、呼吸困難、腹痛、下痢、嘔吐

【現病歴】

夕食のために家族 3 人で回転すし店を訪れ、好物のカニマヨ軍艦（カニカマ、マヨネーズ、トウモロコシ、コショウ）を食べ終わったところに咽頭違和感と単発の軽い咳嗽を自覚した。食べ物やコショウでむせたかと思ひ、経過観察していた。次第にのどが詰まる感じが増悪し、呼吸困難を自覚した。15 分後に激しい腹痛が現れ、トイレに駆け込んだが下痢や嘔吐が止まらなくなり、介助していた父親の救急要請で当院救急外来に搬送された。意識は清明。来院時のバイタルサインは、血圧 74/42 mmHg、脈拍 128 回/分、呼吸数 22 回/分、体温 35.4℃、SpO₂ 90%(酸素マスク 6L/分)であった。すぐにアドレナリン 0.5mg(体重 64 kg)を筋注し、生理的食塩水 1000mL を点滴静注したところ、症状が速やかに改善し、バイタルサインも安定した。経過観察のために 1 泊入院した。

【既往歴】

10 歳頃から原因不明の蕁麻疹、小児喘息(12 歳で自然完解)、薬剤アレルギー・過敏症：なし

【生活歴】 回転すし店には月に 1 回以上訪れる。趣味：父親の釣りに同行する。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ オボムコイド、アニサキス

問 6

【症例】 32 歳 男性 警察官

【主訴】 全身の膨疹と呼吸困難

【現病歴】

もともと小麦のアレルギーがあり、完全除去をしている。2 歳の子どもの幼稚園の端午の節句で柏餅を作るイベントに参加していた。小麦アレルギーがあったので事前に材料を確認したところ、米粉、こし餡とあったので大丈夫だと思ひ、イベント主催者には特に小麦アレルギーのことを伝えていなかった。11 時頃でき上がった柏餅を食べたところ、直後から口の違和感が出現した。緊急時用に持っていた抗ヒスタミン薬を内服したが、全身に膨疹が広がり、15 分後には呼吸困難になった。緊急時のためエピペン®を処方されていたが、今日は所持していなかったため救急車で来院した。

後で、材料として用意していた米粉が不足したため、米粉に小麦を足して使用していたことが判明した。

【既往歴】

小麦アレルギーは幼少時に診断された。18 歳時に小麦の負荷試験を行い、0.5 g の摂取で全身の蕁麻疹と喘鳴が出て陽性と判断された。それ以降、完全除去の指示となっており、緊急時用に抗ヒスタミン薬とエピペン®を処方されている。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ω-5 グリアジン

問 7

【症例】 16 歳 男性 高校生

【主訴】 痒み、呼吸困難

【現病歴】

高校に入ってサッカー部に入った。夕方の部活動の終了時間が遅いため、最近部活動前に軽食としておにぎりを食べるが多かった。今日は軽食として肉まんを食べてから部活動に行った。ウォーミングアップでグラウンドを走っている最中に体が痒くなってきたが、そのまま走り続けた。10 分後に呼吸が苦しくなり動けなくなった。部活動の顧問の先生が駆けつけたときには全身が真っ赤になっており、会話はできるものの強い呼吸苦の訴えが続いていた。発症から 40 分後、救急車で来院した。今日は朝から体調はよかった。肉まんは好きで普段からよく食べている。

【既往歴】

幼少期に牛乳アレルギーがあったが、4 歳で完解し、現在、制限はなく摂取できる。2 歳頃から気管支喘息の治療をしていたが、8 歳以降急性増悪はなく、現在コントローラーも使用していない。

【生活歴】

両親、妹（13 歳）の 4 人家族。持病はなく、内服などはしていない。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ω-5 グリアジン

問 8

【症例】 25 歳 女性 会社員

【主訴】 皮疹

【現病歴】

以前におやつにミックスナッツを食べたところ、その 5 分後に下肢に皮疹が出現し、2 時間くらいして自然に改善したことがあった。ミックスナッツの内容はアーモンド、クルミ、カシューナッツ、ピスタチオだった。本日料理教室でクルミパンとコーンポタージュスープを作り試食したところ、15 分後に前腕と頸部に皮疹が出現した。また、キリキリするような腹痛もあった。いずれの症状も 3 時間程度で自然に改善したが、原因が気になって 2 日後に皮膚科の外来を受診した。コーンスープを飲んでこのような症状が出現したことは今までにはない。

【合併症・既往歴】

花粉症や気管支喘息、アトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の合併はない。

【生活歴】

東京都在住。父、母と 3 人暮らし。6 年前から自宅で犬を飼っている。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ Jug r 1

問 9

【症例】 15歳 女性 中学生

【主訴】 呼吸困難、口唇腫脹、蕁麻疹

【現病歴】

以前に夜食にミックスナッツを食べたところ、蕁麻疹が出現したことがあった。ミックスナッツの内容はよく覚えていないが、以降は木の実類やピーナッツをすべて避けて生活していた。

本日昼に家族で中華料理を食べた際に、食後15分後に突然口唇腫脹と咽頭搔痒感、のどの詰まる感じと息苦しさが出現した。症状は2時間後に自然に治まったが、同日夕方に内科外来に受診した。

昼食に食べた中華の内容は、エビチリ、鶏肉のカシューナッツ炒め、卵スープ、ゴマ団子、杏仁豆腐だった。

【合併症・既往歴】

上記以外に食物アレルギーを疑うエピソードはない。花粉症（春、以前に検査をしてスギとハンノキの特異的IgEが陽性であった）。アトピー性皮膚炎（外用薬でコントロール良好）。

【生活歴】

東京都在住。父、母と3人暮らし。3年前からネコを飼育している。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的IgE」

⇒ Ana o 3

問 10

【症例】 42歳 男性 調理師（寿司職人）

【主訴】 全身の皮膚搔痒感、呼吸困難、意識低下

【現病歴】

1ヶ月前に職場の昼食でちらし寿司（白米、マグロ、サバ、イカ、たくあん、生姜、卵焼き）を食べた後、徐々に全身の皮膚が痒くなった。2時間後、上肢に膨疹が出現し、次第に全身に拡大した。呼吸困難や意識レベル低下を認め、同僚が救急要請した。同じものを食べた人で体調を崩したのは患者のみであった。アナフィラキシーの診断でアドレナリン筋注し、経過観察のため緊急入院した。

【身体所見】

意識レベルE3V4M6（GCS）、血圧64/42 mmHg、脈拍112/分、呼吸数12回/分、体温36.6℃。全身の皮膚に膨疹と紅斑を認め、著明な喘鳴を聴取した。SpO₂は94%（6L/分、マスク）

【既往歴】

脂質代謝異常症（HMG-CoA 内服薬を服用中）、湿疹（未治療）、同じ職場で失神したことがあるが原因は不明。

【生活歴】喫煙：なし 飲酒：機会飲酒

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的IgE」

⇒ アニサキス

問 11

【症例】 24歳 女性 事務職

【主訴】 口唇の腫脹、咽頭搔痒感

【現病歴】

毎年春に果物を食べると唇が腫れる症状を自覚していた。4月にホテルで行われた新入社員歓迎会の立食パーティーでまず口にしたフルーツポンチを食べた数分後に口の中の搔痒感と口唇の腫脹を自覚した。これらの症状は1時間ほどでおさまり、蕁麻疹や呼吸困難の症状はなかった。症状は自然改善したが、気になったため後日に内科外来を受診した。フルーツポンチの中にはモモやリンゴ、サクランボが入っていた。この歓迎パーティーの前1週間ほどは仕事が忙しく睡眠時間が十分に確保できていなかったとのことだった。本人に聴取すると春になると鼻汁、鼻閉、眼の搔痒感を自覚していたが、特に薬剤の服用はしていない。

【合併症・既往歴】

気管支喘息（吸入ステロイド薬を使用中）。直近1年間で増悪なし。

【生活歴】

長野県出身。東京都在住。独居。喫煙：なし。飲酒：機会飲酒。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ハンノキ花粉

問 12

【症例】 25歳 女性 薬剤師

【主訴】 皮疹、呼吸困難

【現病歴】

以前は食物アレルギーはなかったが、20歳頃からリンゴやモモを食べると口唇や眼瞼が腫れる症状を自覚するため、果物の摂取を避けていた。最近テレビで豆乳ダイエットの流行を知り、それまで飲む習慣がなかったが5月某日に自宅で豆乳を飲んだ。しかし数分後、全身に皮疹が出現し呼吸困難も伴ったため救急要請した。

【身体所見】

来院時バイタルサイン：意識清明。血圧 95 / 56 mmHg、HR 95 回/分、呼吸数 12 回/分、SpO2 98%
胸部聴診で strider を聴取。四肢に膨隆した蕁麻疹があったとのことだが、現在はほぼ消退している。

【合併症・既往歴】

特になし。ただしここ2年ほど「春の花粉症になったかも」と感じているとのこと。

<生活歴>

東京都在住。独居。喫煙：なし。飲酒：機会飲酒。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ハンノキ花粉、Gly m 4

問 13

【症例】 26 歳 男性 会社員

【主訴】 口腔や咽頭の違和感

【現病歴】

数日前、非加熱のセロリを摂取した際に口腔や咽頭のいがいがする感じを自覚し、1 時間ほどで自然に改善した。本日、食物アレルギーを心配してアレルギー科を受診した。なお、リンゴ、モモ、キウイ、メロン、スイカなどの他の果実や、ニンジン、キュウリなどの他の野菜、大豆やナッツ類は問題なく摂取できている。この数年は秋ごろに花粉症の症状がある。

【身体所見】 蕁麻疹や湿疹といった皮膚所見は認めない。

【既往歴】 鶏卵アレルギー（乳児期発症、小学校就学前に自然軽快）

【生活歴】 喫煙：なし。飲酒：機会飲酒。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ヨモギ花粉

問 14

【症例】 16 歳 男性 高校生

【主訴】 口腔内違和感

【現病歴】

スイカを摂取した後に口腔内の違和感を認めたため、救急外来を受診した。血圧 138/63 mmHg、心拍数 82 回/分、SpO₂ 100%（室内吸気）であった。

【身体所見】 胸部聴診では呼気時喘鳴は聴取しない。明らかな皮疹は認めない。

【既往歴】 小児喘息・小児期のみアトピー性皮膚炎があった。

【生活歴】 東京都在住であり転居歴はない。喫煙：なし。飲酒：なし。

【家族歴】 母はエビアレルギー、兄は花粉症。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ブタクサ花粉、カモガヤ花粉

問 15

【症例】 50 歳 女性 元看護師

【主訴】 食事摂取後の口腔内違和感

【現病歴】

35 歳時気管支喘息を発症し、外来で通院加療を行っている。花粉症の症状とともに喘息症状も増悪する傾向があった。数年前に何度か食事摂取した数分～数十分後に呼吸困難、咽頭違和感が出現した既往があり、ゴム手袋やストッキングなどのゴムとの接触によって発赤や掻痒感が出現することがあった。今回はマンゴーのドライフルーツをたべた後に口腔内違和感が出現したために当科を受診した。

【身体所見】 体温 36.0℃、血圧 126/72 mmHg、心拍数 72 回/分、呼吸数 14 回/分、SpO₂ 98%（室内気）。

【既往歴】 スギ花粉症

【生活歴】 喫煙：なし。ペット飼育：なし。

作問者の想定した「精査の際に必ず選択すべき抗原特異的 IgE」

⇒ ラテックス、Hev b 6.02